

Quality is more than a word

ESPEC



第 **64** 期

株主通信

2016年4月1日から2017年3月31日まで



株主のみなさまへ

当社は今年度創業70周年を迎えます。
株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、
厚くお礼申しあげます。

2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）の日本経済は、円高の進行や中国経済の減速、英国のEU離脱問題などにより先行き不透明な状況となりましたが、米国大統領選後には円安基調となり景況感の改善が見られました。当社の主要顧客におきましては、エコカーや自動運転技術の開発が加速する自動車関連メーカーでは積極的な投資が継続いたしました。こうした中、当社は自動車市場での取り組みを強化し、国内ではカスタム製品や受託試験サービスが堅調に推移いたしました。海外では東南アジアや欧州は低迷したものの中国や米国、韓国などは好調に推移いたしました。

連結業績といたしましては、売上高は前年度比で1.2%増加いたしました。原価率の悪化などにより営業利益は7.9%の減少、親会社株主に帰属する当期純利益は7.3%の減少となりました。

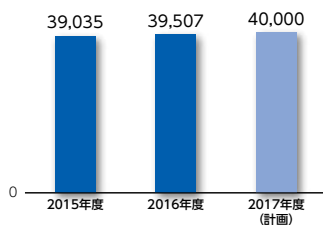
期末配当金につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益が10月発表の業績予想を上回る結果となりましたので、配当予想から1株当たり4円を増額し、24円とさせていただきます。これにより年間の配当金は36円（配当性向36.8%）となりました。

当社は、中期経営計画「プログレッシブ プラン2017」として、2017年度に売上高400億円以上、営業利益40億円以上（営業利益率10%以上）を目指しておりましたが、2016年度の営業利益が期初計画を下回る結果となりましたので、遺憾ながら目標を見直しました。2017年度におきましては、売上高400億円以上、営業利益37億円以上（営業利益率9.2%以上）、親会社株主に帰属する当期純利益27億円以上を目指してまいります。年間の配当金につきましては、株主還元の強化として配当性向40%を目指しており、1株当たり50円（配当性向42.3%）を予定しております。うち2円は、創業70周年の記念配当とさせていただきます。ご了承ください。

株主のみなさまにおかれましては、一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

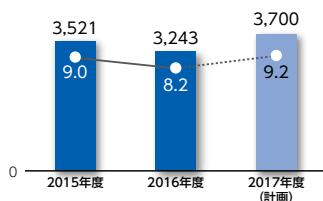
売上高

(百万円)



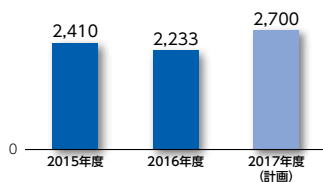
営業利益 営業利益率

■ (百万円)
—○— (%)



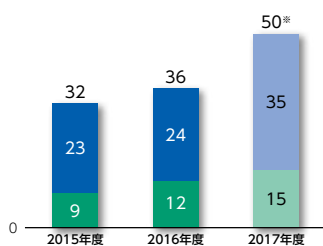
親会社株主に帰属する 当期純利益

(百万円)



1株当たり配当金

■ 期末
■ 中間 (円)



*記念配当 中間1円、期末1円を含む



代表取締役社長 **いしだ まさあき**
石田 雅昭

本社6階茶室 空織亭 (クオリティ) にて

最先端技術の発展を支える研究開発の中核拠点「神戸R&Dセンター」

**「環境創造技術」を駆使した装置開発で
お客様の試験ニーズに的確に対応**

自動車の自動運転や、あらゆるモノがインターネットにつながるIoTなどの技術革新に伴い、新しい電子機器・部品の開発が急速に進んでいます。これらの製品の信頼性や安全性、耐久性を確保するためには、製品一つひとつについて環境試験を行う必要があり、そのニーズは年々増加しています。こうした最先端分野の試験ニーズに的確にお応えするため、エスペックグループの研究開発の中核を担っているのが「神戸R&Dセンター」です。ここでは、エスペックのコアコ

ンピタンスである「環境創造技術」を進化させながら、最先端分野で必要とされる試験装置や試験技術の開発を行っています。近年では、自動車に搭載する二次電池向けの評価装置や、自動車関連規格・国際規格に対応した急速温度変化試験ができる装置、地球温暖化への影響が少ない冷凍技術などを次々と生み出しています。また、産官学連携による新たな試験方法の開発を行うなど、環境試験のリーディングカンパニーとして最先端技術の発展を支えています。



神戸R&Dセンター

所在地：兵庫県神戸市北区鹿の子台南町5-2-5
操業：2001年 総面積：31,911m²



ビオトープ

生物多様性豊かなビオトープに囲まれ、自然との共生を
実践しています

豊富な知識とノウハウを活かした受託試験で お客様の試験をトータルにサポート

同敷地内にある神戸試験所では、長年の試験研究で培った豊富な知識とノウハウを活かして、お客様の試験の設計・実施から評価、改善提案に至るまでトータルにサポートしています。お客様のさまざまなご要望にお応えできる最新の環境試験装置を取り揃え、日本初の ISO / IEC 17025に基づく IECQ 独立試験所として、第三者機関としての公平性と中立性を保持した信頼性の高い試験結果をご提供しています。



神戸試験所

信頼性の高い受託試験サービスをご提供しています

開発本部紹介

事業所には従業員が育てた豊かな森があり、さまざまな木々が互いに自己主張しながらも一つの安定した生態系を形成しています。この森のように、開発本部では技術者一人ひとりの個性を活かし、互いに高め合う組織運営を実践しています。開発で大事なことは、課題を乗り越えるための「挑戦」です。将来性の高い独自技術による世界一の製品の開発に向け、日々挑戦を続けています。



開発本部長と開発メンバー

個人投資家向けIRイベント「東証IRフェスタ2017」への出展

2月24日～25日に東京国際フォーラムで行われた東京証券取引所主催の「東証IRフェスタ2017」に出展しました。本イベントには2014年から参加しており3回目の出展となります。今回は「エスペックが成長する理由」と題して、世の中のトレンドに合致している当社の事業内容や企業力、社会性の高さなどについてご紹介しました。社長の会社説明会には定員を上回る67名にご参加いただきました。ブースではスタッフ全員が発表者となってミニ説明会を繰り返し行い、2日間で1,445名のみなさまにご来場いただきました。



社長の会社説明会とブース説明会
社名ロゴが入ったお揃いのブルゾンで対応

お客さまからは、「長年投資をしているがこんなにいい会社があるなんて知らなかった」「社会に不可欠な会社」「これからますます成長しそう」「数年前にもブースに来たが随分パワーアップしたね」といった声をいただきました。説明会後のアンケートでは、当社に対して特に「技術力」「成長性」「社会性」が高いというイメージを持たれたことが分かりました。今後もより多くの個人投資家のみなさまに当社のことを知っていただき理解を深めていただくための活動に取り組んでまいります。

ラジオNIKKEI「アサザイ」に出演

2月8日放送のラジオNIKKEI第1「朝イチマーケットスクエア」アサザイ今日の1社"に出演し、社長より当社の魅力を伝えました。当日放送分に加え、ロングインタビューの内容もラジオNIKKEIホームページより聴くことができます。



パーソナリティの
井上哲男氏(写真中央)と



ラジオNIKKEI
「アサザイ」HP

「緑の都市賞 都市緑化機構会長賞」を受賞

エスペックミック株式会社が、都市緑化機構主催の「第36回緑の都市賞」で宮城県仙台市の輪王寺と「都市緑化機構会長賞」を共同受賞しました。地域の方々と5カ年にわたり約60種3万本を超える植樹を行い、トンネル工事により伐採された輪王寺参道の豊かな森を復元しました。(P.8の写真もご覧ください)



輪王寺参道での植樹の様子

「環境コミュニケーション大賞 優良賞」を2年連続受賞

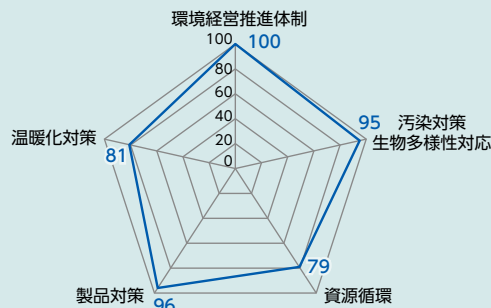
当社のCSRレポート2016が、環境省、地球・人間環境フォーラム主催の「第20回環境コミュニケーション大賞」において環境報告書部門「優良賞」を昨年に続き受賞しました。当社のCSRレポートはホームページに掲載しています。

URL:<http://www.espec.co.jp/csr/report.html>

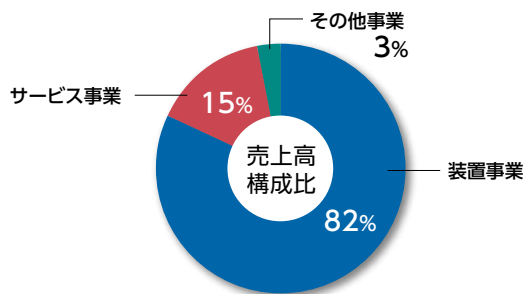


日本経済新聞社 環境経営度調査で38位を獲得

日本経済新聞社の2016年の環境経営度調査において、当社は前年の48位から順位を上げ、38位となりました。評価項目である「温暖化対策」「環境経営推進体制」において主にポイントを伸ばしました。特に「環境経営推進体制」のスコアは満点の100となり、グループにおける中長期の目標設定や環境経営を横断的に統括・推進する体制、従業員の環境教育などについて高い評価を受けました。



事業セグメント別概況



〈装置事業〉

- 環境試験器
- エネルギーデバイス装置
- 半導体関連装置

〈その他事業〉

- 環境エンジニアリング
森づくり・水辺づくり・都市緑化など
- 新規事業
植物工場など

〈サービス事業〉

- アフターサービス・エンジニアリング
- 受託試験・レンタル

装置事業

売上高は微増となるも製品構成の変化により減益

環境試験器では、国内においてカスタム製品が堅調に推移しました。海外では、東南アジア・欧州の売上高が前年度比で減少したものの、中国・米国・韓国・台湾では増加しました。その結果、環境試験器全体では受注高・売上高ともに前年度比で微増となりました。

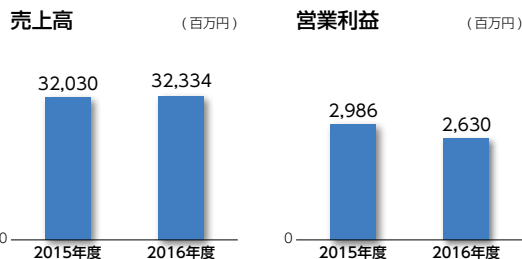
エネルギーデバイス装置では、燃料電池評価装置が好調に推移し、受注高は前年度比で増加しましたが、売上計上が来年度となる案件があり売上高は前年度並みとなりました。半導体関連装置では、自動車関連メーカーを中心に堅調に推移し、受注高・売上高ともに前年度比で増加しました。

装置事業全体では、前年度比で売上高は0.9%増加し、営業利益は製品構成の変化に伴う原価率の悪化などにより11.9%減少しました。

新製品



ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ
急速温度変化タイプ



サービス事業

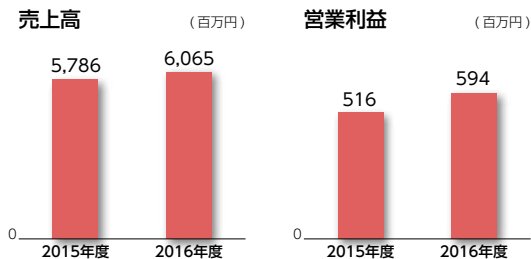
受託試験が堅調に推移し、増収増益

アフターサービス・エンジニアリングでは、受注高・売上高ともに前年度並みとなりました。受託試験・レンタルでは、自動車市場において主力のテストコンサルティングが堅調に推移し、受注高・売上高ともに前年度比で増加しました。

サービス事業全体では、前年度比で売上高は4.8%増加し、営業利益は15.1%増加しました。



豊田試験所



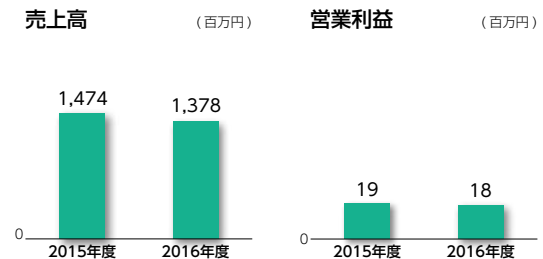
その他事業

森づくりが低迷し、減収減益

エスペックミック株式会社の植物工場および水辺づくりが堅調に推移しましたが、森づくりが低迷しました。その他事業全体では、前年度比で売上高は6.6%減少し、営業利益は3.9%減少しました。



仙台市輪王寺参道の大きく育った森
「緑の都市賞 都市緑化機構会長賞」を受賞



要約財務諸表

連結貸借対照表

(百万円)

科目	当年度末 2017年3月31日	前年度末 2016年3月31日
資産の部		
流動資産	34,694	33,640
固定資産	14,349	14,405
有形固定資産	9,827	10,081
無形固定資産	961	1,126
投資その他の資産	3,560	3,197
① 資産合計	49,044	48,045
負債の部		
流動負債	10,263	10,783
固定負債	1,731	1,628
② 負債合計	11,994	12,411
純資産の部		
株主資本	36,689	35,161
資本金	6,895	6,895
資本剰余金	6,914	6,914
利益剰余金	23,873	22,441
自己株式	△994	△1,090
その他の包括利益累計額	359	472
③ 純資産合計	37,049	35,633
負債純資産合計	49,044	48,045

① 総資産

前年度末と比べ998百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加1,355百万円、受取手形及び売掛金の減少845百万円、投資有価証券の増加333百万円などによるものです。

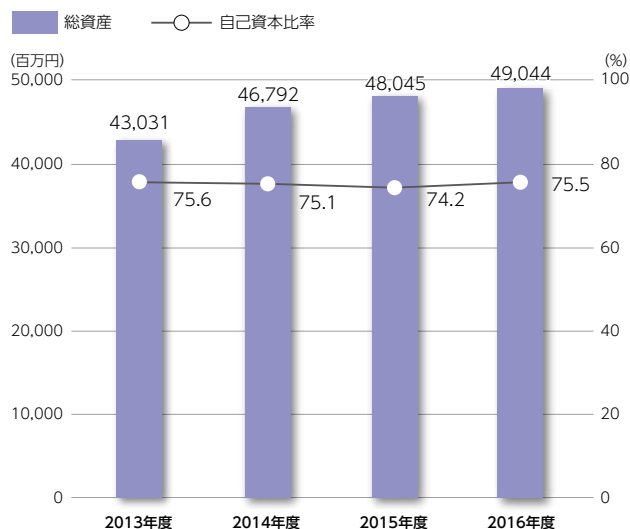
② 負債

前年度末と比べ416百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少949百万円、電子記録債務の増加486百万円などによるものです。

③ 純資産

前年度末と比べ1,415百万円の増加となりました。その主な要因は、株主資本の増加1,528百万円、その他の包括利益累計額の減少112百万円などによるものです。

総資産・自己資本比率

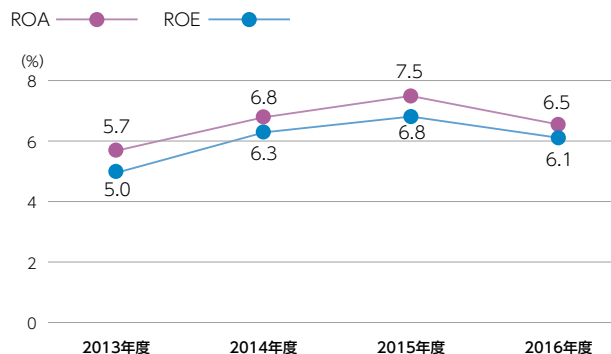


連結損益計算書

(百万円)

科目	当年度 2016年4月1日から 2017年3月31日まで	前年度 2015年4月1日から 2016年3月31日まで
売上高	39,507	39,035
売上原価	26,059	25,461
売上総利益	13,447	13,573
販売費及び一般管理費	10,204	10,051
営業利益	3,243	3,521
営業外収益	173	260
営業外費用	245	211
経常利益	3,171	3,570
特別利益	3	32
特別損失	30	9
税金等調整前当期純利益	3,144	3,593
法人税等	911	1,164
非支配株主に帰属する当期純利益	—	18
親会社株主に帰属する当期純利益	2,233	2,410

総資産経常利益率 (ROA) ・ 自己資本利益率 (ROE)



連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	当年度 2016年4月1日から 2017年3月31日まで	前年度 2015年4月1日から 2016年3月31日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,792	356
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△178	△3,100
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△787	△1,924
現金及び現金同等物に係る換算差額	△168	△78
現金及び現金同等物の増減額	1,657	△4,747
現金及び現金同等物の期首残高	9,596	14,167
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	176
現金及び現金同等物の期末残高	11,254	9,596

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

2,792百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、税金等調整前当期純利益の計上3,144百万円、減価償却費の計上795百万円、法人税等の支払額1,086百万円などによるものです。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

178百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出394百万円、有価証券の減少300百万円、信託受益権の増加126百万円などによるものです。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

787百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、配当金の支払額798百万円などによるものです。

会社概要・株式の状況・株主メモ

会社概要(2017年3月31日現在)

社名	エスペック株式会社
本社	〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
創業	昭和22年(1947年)7月25日
設立	昭和29年(1954年)1月13日
資本金	6,895百万円
従業員数	1,426名(連結) 814名(単体)

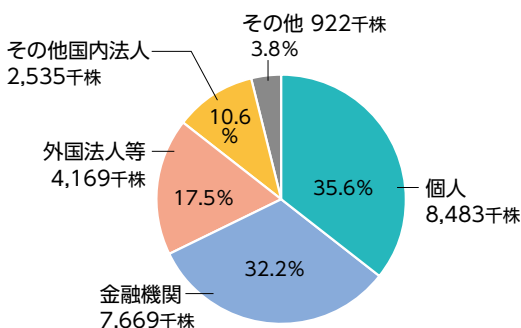
役員(2017年6月23日現在)

代表取締役社長	石田 雅 昭
常務取締役 上席執行役員	島田 種 雄
常務取締役 上席執行役員	石井 邦 和
社外取締役	長野 寛 之
社外取締役	小杉 俊 哉
常勤監査役	村上 充
常勤監査役	小田 隆 昭
社外監査役	山本 哲 男
社外監査役	堤 昌 彦
上席執行役員	村上 精 一
上席執行役員	大島 敬 二
執行役員	浜野 寿 之
執行役員	末久 和 広
執行役員	淵田 健 二
執行役員	西谷 淳 子
執行役員	荒田 知

株式の状況(2017年3月31日現在)

発行済株式総数	23,781,394株 (自己株式922,724株を含む)
株主数	5,203名

所有者別株式数分布状況



大株主

株主名	持株数 千株	持株比率 %
エスペック取引先持株会	2,040	8.57
日本ファイナンス信託銀行(信託口)	1,748	7.35
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	1,448	6.09
エスペック株式会社	922	3.88
エスペック従業員持株会	876	3.68
日本生命保険相互会社	790	3.32
株式会社みずほ銀行	513	2.15
株式会社立花エレテック	419	1.76
MSCO CUSTOMER SECURITIES	416	1.74
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	376	1.58

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基準日	3月31日および取締役会決議によって あらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0120-288-324(通話料無料) (土、日、祝日を除く9:00~17:00)
お取扱店	みずほ証券株式会社 (本店および全国各支店、プラネットブース(株式会社みずほ銀行内の店舗)) みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店)
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店) (みずほ証券株式会社では取次のみとなります)
公告方法	電子公告 電子公告掲載の当社ホームページURL http://www.espec.co.jp/ir/stock/notice.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載

お問合せ先

エスペック株式会社 コーポレートコミュニケーション部
Tel:06-6358-4744 e-mail:ir-div@espec.jp

ホームページのご案内

当社ホームページが、日興アイ・アール主催の「2016年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング」において、前回に続き最優秀サイトに選定されました。2015年に和文サイトをリニューアルし、個人投資家のみなさまにご理解を深めていただくための新規コンテンツ「個人投資家のみなさまへ」を設けるなど、継続して内容の充実に取り組んでいます。ぜひご利用ください。

<http://www.espec.co.jp>



株主アンケートのお願い

当社は、株主のみなさまからいただいたご意見を真摯に受け止め、経営に反映させていきたいと考えております。つきましては、別紙アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

(締切：2017年7月27日当日消印有効)

アンケート結果につきましては、中間株主通信にて報告させていただきます。なお、アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で300名の方に1,000円分の図書カードを進呈いたします。

(当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます)

証券コード: 6859

エスペック株式会社

